

G U T A I

復刻版

具体

国の内外から注目を集める「具体美術協会」、その機関誌を完全復刻。
待望された全エッセイの英訳を実現。

藝華書院



本書の特徴

- 研究者に渴望されながら、発行部数の少なさや、流通の範囲が限られていたため全巻の通覧が不可能であった本誌を、今回初めて集大成。
- 戦後日本の前衛美術運動の誕生、活動の息吹を誌上再現。細部に至るまで精確な完全復刻。
- 掲載された作品写真やエッセイなどの、資料としての活用が期待される。
- 別冊には気鋭の研究者3名による論考・解説・解題を掲載。各作家によるエッセイの全英訳や吉原治良「具体美術宣言」(原文・英訳)を収録し、海外に向けての発信を目指す。他に活動年表、写真資料を掲載。

復刻版『具体』 監修◆芦屋市立美術博物館

復刻本12冊+別冊の計13冊で構成。

並製・セット函入

定価：本体12万円+税(分売不可)

ISBN 978-4-9904055-3-3 C3070

2009年秋刊行予定

別冊内容予定

『具体』掲載全テキストの完全英訳

- ①具体美術協会と機関誌『具体』について
……………平井章一(国立新美術館)
- ②世界への掛橋：1956-59年の『具体』
……………加藤瑞穂(芦屋市立美術博物館)
- ③「具体」と日本現代美術
……………光田由里(渋谷区立松濤美術館)

◆各号解題

◆「具体」活動年表

◆具体美術宣言

◆『具体』総索引

お客様各位 弊社は直販のみの販売システムです。ホームページ・メール・ファックス・電話・はがき等で直接ご注文ください。振込用紙同封の上、商品をお送りします。また書店にご注文される場合、書店様から弊社へ連絡いただけますようお願いください。

書店様各位 弊社は直販のみの販売システムです。ご注文の場合、ホームページ・メール・ファックス・電話にてお問い合わせ下さい。条件等ご連絡の上、納品させていただきます。



お取扱書店

注文書

株式会社

藝華書院

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-35-27
Tel : 03-5842-3815 Fax : 03-5842-3816
E-mail : info@geika.co.jp
http://www.geika.co.jp

機関誌『具体』とは

今日、戦後日本を代表する前衛美術グループとして国の内外から注目を集める「具体美術協会」（以下、「具体」）は、1954（昭和29）年、芦屋市在住の吉原治良を中心に、彼の周りに集まった若手芸術家により結成された。

「人のまねをするな」という吉原の言葉のもと、野外展、舞台展において既成概念にとらわれない表現、行為を展開し、「具体」は当時の美術界に旋風を巻き起こした。1958年ころからは、ヨーロッパやアメリカにも作品が紹介され、アンフォルメルと呼応した活動を展開。1962年には大阪にグタイピナコテカを開設、そこを活動の拠点として広く海外の人々とも交流を持つようになる。しかし、その活動は1972年吉原治良の突然の死によって幕を下ろすことになる。

その「具体」が、グループの活動を広く国内外に発信することを目的に、1955年1月の創刊以降、1965年10月発行の第14号まで不定期に発行したのが、機関誌『具体』である（そのうち10号と13号の2冊は欠号であり、計12冊が刊行された）。『具体』は、グループの展示会の記録写真や作品写真を中心に、会員のエッセイが掲載されており、まさに、「具体」の初期から中期にかけての活動と思想を伝えるメディアであった。毎号、趣向を凝らしたデザインやアーティスト・ブック的な要素も取り入れた体裁など、まさに時代を先取りしていた。

『具体』は、「具体」を研究する上で第一級の資料であるにもかかわらず、発行部数が少なく、流通した範囲も限られていたことから、全巻を所持する研究機関・図書館は皆無に等しい。また、1980年代以降の世界的な「具体」再評価の高まりを受け、美術館等が「具体」作品を所蔵するようになるとともに、「具体」に関心を持つ研究者から重要資料として復刻を望む声が高まっている現状に鑑み、今回の復刻出版に至った。



①

- ① 野外具体美術展会場（芦屋公園）の具体会員 1956年
- ② 新しい絵画世界展会場風景（高島屋・大阪） 1958年
- ③ 国際スカイフェスティバル（高島屋屋上・大阪） 1960年



②



③

主な『具体』掲載作家（太字は「具体美術協会」会員。順不同）

吉原治良、上前智祐、浮田要三、金山明、嶋本昭三、白髪一雄、白髪富士子、鷺見康夫、田中敦子、坪内晃幸、前川強、正延正俊、松谷武判、向井修二、村上三郎、元永定正、山崎つる子、吉田稔郎、吉原通雄

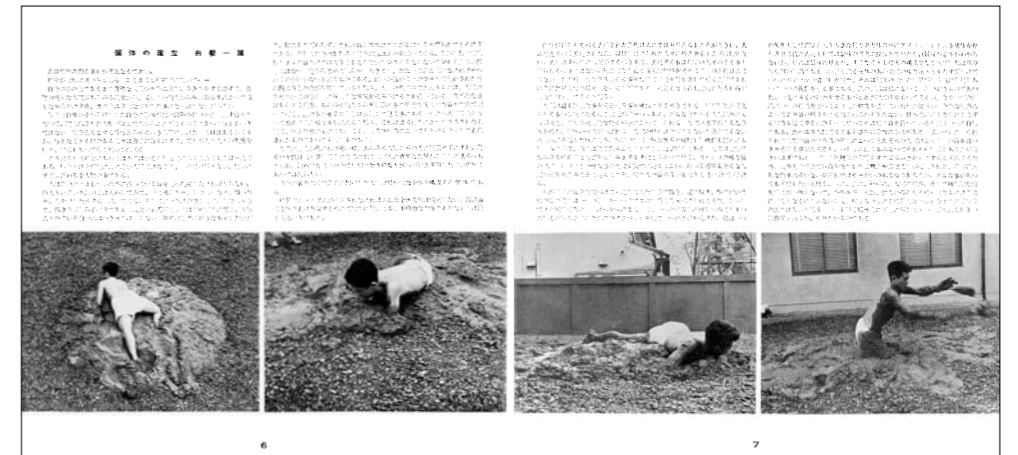
今井俊満、勅使河原蒼風、堂本尚郎、カレル・アペル (Karel Appel)、

ジュゼッペ・カポグロッシ (Giuseppe Capogrossi)、ルーチョ・フォンタナ (Lucio Fontana)、

サム・フランシス (Sam Francis)、フランツ・クライン (Franz Kline)、ジョルジュ・マチウ (Georges Mathieu)、

ジョアン・ミッチェル (Joan Mitchell)、ロバート・マザウエル (Robert Motherwell)、ジャクソン・ポロック (Jackson Pollock)、

ジャン＝ポール・リオペル (Jean-Paul Riopelle)、アントニ・タピエス (Antoni Tàpies) 等



『具体』第4号 (pp.6-7) より

発刊に際して

（『具体』第1号掲載）



これは阪神地方に居住する十六人の前衛美術家の作品を世に問うために作られた冊子であります。各自経費をもち寄り印刷機械を借りて自分たちの手で刷り上げました。大部分は二十歳代の若い美術家達ですが忙しい仕事のひまに励ましあって漸く作り上げたものです。だから手際のよい美しい印刷とはいえないかも知れません。或は不手際から来るよごれや指紋のくっついたのもあるかも知れません。そしてその仕事の労力も不完全な機械と素人の技術では大変なものであることを体験したわけです。しかしこれらの人々は自分達の仕事がこの冊子を通じて世界中の人々に深い共感と呼ぶチャンスを持ち得るものと信じています。この人々がこうした仕事を始めたのも夫々の作品を通じてお互が深い共感と友情を勝ち得たことを知っているからです。私も又実はこれらの友情の一環の中に繋がっていることに非常な喜びを感じるものです。われわれにとって最も大切な事柄は現代の美術が厳しい現代を生きぬいて行く人々の最も解放された自由の場であり自由の場に於ける創造こそ人類の発展に寄與し得る事であると深く信じるからです。

われわれはわれわれの精神が自由であるという証しを具体的に提示したいと願っています。新鮮な感動をあらゆる造型の中に求めて止まないものです。われわれはこの冊子をそのために捧げたいと思っています。視覚芸術の全般にわたって例えば書、生花、工芸、建築等の分野にも友人を発見したいと思っています。幸い今後専門の印刷所の手で次号からは漸次印刷する見通しもつきましたので各方面の協力を得て新しい美術を中心として児童美術や文学、音楽、舞踊、映画、演劇等現代芸術の各ジャンルとも緊密に手を握って行きたいと思っています。

ふるって作品の写真ならびに御投稿を希望します。

吉原治良